

日福大生らの命 語り継ぐ

長野スキーバス事故38年

三十八年前に長野市でスキーバスが転落し、日本福祉大(美浜町)の学生ら二十五人が亡くなった事故の追悼集会が二十七日、同大美浜キャンパスであった。学生や教職員ら百七十七人が参列。他の三つのキャンパスでも式を中継し、献花が行われた。(三宅駿平)



献花する参列者たち。美浜町の日本福祉大で

美浜キャンパスで追悼集会

集会は慰霊碑がある広場で開かれた。児玉善郎学長は「悲惨なバス事故のことを風化させないとともに、二度と繰り返さないよう取り組んでいくことが本学の使命」と誓った。

学生代表の社会福祉学部二年、鈴木竜斗さん(三〇)は「私たちがバス事故の教訓を語り継いでいく必要がある。亡くなられた先生や先輩方のためにも、微力ながら後輩や友人たちに語り継いでいく」と述べた。

参列者は黙つた後、一人ずつ献花した。亡くなった女子学生と社会福祉学部で同級生だった、会社員中西利博さん(五七)は豊川市豊津町は約三十年ぶりに参列。「たくさんの学生が参列してくれてありがたい。手を合わせながら、事故当時のことを思い出していました」と話した。

事故は一九八五(昭和六十)年一月二十八日早朝に発生。スキー合宿へ向かう四十六人を乗せたバスが、長野市信更町の国道19号でスリップし、ガードレールを突き破って犀川に転落。学生二十二名、教員一人、乗務員二人の計二十五人が死亡した。

二十八日には事故現場近くの慰霊碑前で、追悼法要が開かれる。